

《コース専門教育科目 実習科目》

科目名	保育実習				
担当者氏名	阪本 博寿、昇 慶一				
授業方法	実習	単位・必選	2単位・選択	開講年次・開講期	3年・秋期

《授業の概要》

実習する施設の意義や技術、実習における心構えを確認し、実習課題の設定や実習記録の書き方などを学ぶ。実習では、施設の入所児童・利用者と保育者が織りなす現場を実感し、施設保育について主体的に考え、積極的に参加する力を養う。実習後の指導等を通して、実習内容を深め、施設における「子どもの権利」や「子どもの最善の利益」の実現について意識を高める。講義中に指示する提出物は、提出期限を厳守すること。

《授業の到達目標》

通所型福祉施設あるいは入所型福祉施設において、実習生として保育実践に参加し、施設保育士としてのスキル向上を目標にしている。保育実習における施設理解を基礎として、より「実践」を重視した目標の設定と実現を目的とする。

《成績評価の方法》

実習施設からの評価 60%、実習課題の達成度 30%、講義への参加状況・受講態度・提出物などの平常点 10%

《テキスト》

「保育実習の手引き（保育所・施設）」（保育実習指導 で配布済み）

《参考図書》

参考書：社会的養護及び社会的養護内容で使用した教科書・参考書
その他、適宜資料を配布する

《授業時間外学習》

1．実習先への事前訪問、実習後の実習記録・お礼状の送付は、各自で確実に行う。2．子どもに関わるニュース・新聞記事に、日頃から関心を持つ。保育者としての言動や記録における適切な文章表現を日常生活で意識し、各自が家庭での炊事・洗濯・掃除等の家事技術の習得に努める。3．授業での配布資料は、実習で必要となるので整理保管は特に注意する。

《備考》

講義中に提示する提出物の提出は、期限を厳守のこと。授業での配布物は、実習で必要となる資料で、整理保管に特に留意すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	保育実習における実習の目的と意義、実習までの流れ及び提出物の確認
2	事前指導（1）	実習の心構え・マナー
3	事前指導（2）	実習計画の検討
4	事前指導（3）	実習計画書の作成
5	事前指導（4）	実習期間中の各日の目標設定
6	事前指導（5）	演習・実習日誌の作成
7	事前指導（6）	施設における運営形態（大舎制・小舎制・ユニット）
8	事前指導（7）	『援助計画』と『自立支援計画』（事例演習）
9	事前指導（8）	『援助計画』と『自立支援計画』（事例演習の振り返り）
10	事後指導（1）	実習の報告と振り返り（達成度の自己評価及び課題の自己分析）
11	事後指導（2）	被措置児童等の現状と対策
12	事後指導（3）	児童福祉施設における子どもの権利を考える 子どもの権利ノートを使用してのロールプレー：子どもへの権利の告知
13	事後指導（4）	児童福祉施設における子どもの権利を考える 子どもの権利ノートを使用してのロールプレー：保護者への配慮
14	事後指導（5）	児童福祉施設における子どもの権利を考える 権利擁護と自立支援
15	事後指導（6）	施設保育士の理念と役割の再確認、今後の自己のあり方及び課題